礫陵新聞
発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
阪本印刷所　㊗1527

親友とは
その人の
影の様なものだ
—アンションコリー—

100号記念特集

—新聞部—

百号発刊に寄せて

学校長　石坂　繁

第二次大戦後、わが国の中等諸学校では学校新聞なるものが、頃目出とうを申し上げたい。

(とみ)に刊行され殆んどの学校でその発刊を見ないところはない程に隆盛となった。

本校の学校新聞も回を重ねて一〇〇号を迎えると云う。この間の先輩部員の業績、苦心の足跡。お繙(ひもど)きこれを偲ぶことは後輩への刺戟反省の資となることを思い、お

学校新聞は限られたスペース、号数、論題、少数の部員、限られた時間の制約も多く一般新聞と対比さるべきものではないが、読者たる学友諸子、御父兄の期待は必ずしも割引きしてもらえない場合も多いのではないか、そこに部員の苦心があると思う。

然し原稿の蒐集、編集、校正等の苦心の結果できあがったインクの香も生々しい紙面に接する喜びは体験者のみの知る感慨であろう。

ペンは剣よりも強し、寸鉄人を刺す言論等よく云われるが、豊かな論理の運行、精選され貯えられた語い、時機に適したその用法は読者の胸を強く打つものである。

私も二十数才の青年教師時代に、福岡出身の論客として有名であった中野正剛氏(代議士)の演説を聴き、その論旨表現法、情熱等にいたく感銘を深くした記憶がある。むしろ羨望をさえ感じた思い出がある。

文は一旦でなるものではないし部員諸子は千数百名の校友に対する木鐸(もくたく)たるべく腕を磨かれんことを。

伝統ある校風を

同窓会長　山本平八郎

若高開設五十周年祝賀式を、二年前に迎えた母校には、諸君の先輩同窓生が、もう二万人近くになりつつある。

物心両面の貴重なるいろいろなものが、学校の歴史として、伝統として、校風として残されている。

私が同窓会長となってからも、「青窓楼」や「友待ち柳」を十数年前に植えている。

「抱夢台」としては、日本広しといえども他校に、その例を見ない、若高の誇りもつくった。

校門の堂々たる石門は、若中創立当時使われた、後輩諸君の登下校をみまもっている。

今度三千五百万円を投じて、昔これも同窓会の寄附になる運動場東側の礫陵園上に、建設される図書館の一室に、同窓会の部屋をつくって、諸君の在学中は図書館で研鑽し、卒業して同窓生となってからは、この同窓会の部屋(名称は目下考究中)で、旧友と旧情を語り会える憩いの場所を設ける。こうしたどの学校でも学べる高校教育課程以外に若高でなくては学べないものを、いろいろと設けて後輩諸君の人間性の幅広い力強い向上に資したいと念願している。

こうした考えで進んでいるが、残念なのは、重宝に誇れる「抱夢台」!これはここを訪れる人々は必ずその着想のすばらしさと、眼下に展開する大景観に、等しく最大の讃仰の言葉を惜しまない。それほどのこの若高独自の「誇り高き場所」が、文字をとりちがえた「埃り高き場所」になっていることだ。

建設して間のないこの「抱夢台」への階段のてすりが、無惨にも化粧煉瓦がはぎとられ、押入れの扉はこわされていた。管理の責任者はだれかと追求する前に、若高生徒は、教師は、これでよいのかと、考えさせられる。今年の入学式前に学校当局に申し入れて修理してもらった、こんな若高の誇りある場所に、恥部をさらけ出す愚はやめてほしい。

同窓会の「抱夢台」でなく、在学生にきれいな夢をもっていただきたい「抱夢台」である。

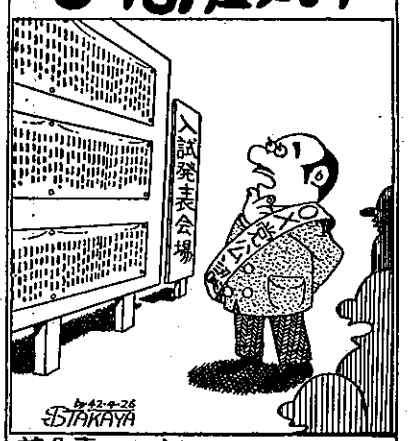
残念なことでもう一つ。先年全世界を沸かした世紀の祭典、東京オリンピック大会の会場で、参加各国の国旗を掲揚した記念すべき国旗掲揚ポール(二二米、引きぬき鋼管)を、私が提唱して若松ロータリークラブから若高や青葉高校等へ寄贈した。青葉高校は、素直によろこんで、すぐ高々とこの記念掲揚柱を立てて、事ある事に国旗を掲揚している。然るに若高ではその後何年たっても立たぬ。何故か。国旗掲揚に反対するものが学校内にいるのか。因に現在講堂で面に飾る大国旗は、私と当時のPTA会長天宮敬一朗氏と共同で寄贈したものである。

数年間卒業式も入学式も国旗は飾られなかった。我々は若高生徒を立派な日本人として教育してもらいたいと念じている。

オリンピック大会場から、若松まで運ぶのは特別長尺物としての苦心がずい分積み重ねられて、やっと学校へ到着したものであり、全世界をわかしたオリンピック大競技場を飾ったものだと言う。なまの実感を伴うこのポールは必ず若高の若人をよろこばせ、若高の誇りをまた一つ増そうと考えてやったが、私のこの考えは間違っているだろうか。未だにこのポールは、学校のどこかに埃りをかぶってところがっている。

私は、若高をすこしでもよくしようと考えている。教科書以外で他校で学べない素晴らしいものをも学んでもらいたい、と念願している。伝統ある校風をつくり、それを吸収して立派な若高生、立派な若高同窓生、として将来大いに社会に活躍してほしい。

若高戯評



競争率…入試1.2倍　選挙3倍
議員—「実に、うらやましいなァ…。」

伸びゆく礫陵新聞

礫陵言をふり返って

吉開先生

礫陵新聞発刊百号に当って、過去十七年間顧問（新部長）としてお世話をしてきた立場から、お祝いをこめて感想を書いてみよう。

私が顧問（当時はそう呼んだ）になったのは、昭和二十五年四月から。前任の久保先生（一昨年退職―現京都市在住）から事務をひきついだのだが、理由は私がそれまで広島の中国新聞記者をしていたことと、それまで何号かの新聞を発行してきたのに、先生が随分生徒にいためつけられた（？）肩代りの意味があったらしい。

というのは終戦後から二十五年頃までは日本の民主化が呼ばれ、一切の解放が唱えられた時期で、その傾向はこの学園にも及んでいた。新聞部の生徒諸君にも相当前進的な人が多く、久保先生が原稿の検閲をされるのに異議を述べて時には徹夜で論議をたたかわすこともあったらしい。ともあれそういう背景の中でこの新聞も継続したものだ。

私は新聞というものの使命を元来次のように考えている。新聞は常に社会の公器として、社会発展の指導に耐えうるものでなければならない。学校新聞は学園の発展と、生徒自治会に指針を与えるようなものでなければならないと思っている。

そういう考えを昭和二十五年から二十九年頃までの新聞部員の方には常に活し、そういう立場で指導をしてきた。幸い私の考えに生徒諸君も同調してくれたし、当時は部員の人も拙宅を訪ねてくれて随ぐ親しくしたものだ。

当時の生徒と言えば、昭和二十六年三月に卒業した部員の大沢君（九六卒）が、国鉄門司鉄道局の経理部長さんになっているということを最近聞いて、大変なつかしく思ったものだ。

昭和二十九年四月から四ケ月間私は商業科に移り、顧問は顧問でも、部員の主力は普通科の諸君だったので、とかく疎遠になりがちだった。

昭和三十三年、再び普通科に帰ったが、この頃入学してくる諸君は、中学校でも新聞作りもやってきた人で、よい新聞を作ってくれた。私はもともと外勤記者で、内勤（整理）をやった経験がないので、紙面作りでは素人に近い。本校の新聞が比較的長い歴史をもちながら、朝日や西日本の新聞コンクールに入選したことがないのも、私の責任と思っている。幸い昨年西日本の奨励賞をもらったのが、これは堺先生の御指導によると思う。

礫陵新聞も紙令百号を数えるようになったと聞いて、年月の経つ早さを痛感する。この面私の指導が極めて不十分であったにも拘らず、生徒諸君が倦まずたゆまず新聞づくりに精進してくれたことに、感謝するとともに今後はともすればマンネリ化する傾向を排除しながら、常に清新で、指導性のある礫陵新聞を作っていただきたい。幸い部長に経験のある堺、日高（彦）両先生を迎えて益々発展していただきたいものだ、私は「礫陵言」を通じて時々の学園のあり方や、諸君の心構えについてささやかな発言を避けたいと思う。

青春の謳歌高校生活

赤司覚先生

君達多年憧れの若高に入学しておめでとう。若高は君達の入学を心から歓迎している。

これから高校生活がは始まる。一斉にスタートラインに並んだわけだ。名人期するものがある筈だ。

高校時代は頭脳、体軀共に最も生長変化の著るしい時である。精神的には今まで依頼してきた権威を否定し、自己を発見し確立する時であり、肉体的にも完成された大人になる時である。高校の三年間はこの激動期であり、子供から大人への変動期に君達の人生が大きく決められることを自覚すべきである。

若高は君達の教育の場として、環境からも指導者からも頼みに足所である。

高校生活は先づ求道と自己確立が中心にならねばならぬ。このことはたゆまない努力と精進によって達成される。学業についても、中学校の延長ではなく、段階の高い所から授業ははじまる。一日も早くこの断層を飛躍して高校の学習コースのルートに乗ることである。この意味で入学初期の勉強が極めて大切である。

高等学校の教科は体系のある学問と言われる程高尚なものではない。知識の理解と記憶がその主体であるからただ努力によるほかに解決の道はない。その意味では中学校の延長と言えるかも分らない。理解し記憶することは苦しいことである。この困難を克服する過程に於し君達は鍛錬され向上し人生に最も大切なものを把握するだろう。

高校生活は苦しいことのみではない。大いに青春を謳歌する場でもある。趣味、苦しみ、迷いを同じくする同発達過程の同志の集るクラブ活動こそ君達の精神、肉体の向上のため最も意義の深いものである。良き友、良き相談相手を得られるのもこの場である。親友を得ることは君達の一生の救となるであろう。

理想とする高校生の人間像を頭の中に創造して之に近づくよう努力することが大切である。「我がことにおいて後悔せず」とは達人宮本歩蔵の言葉である。君達もこの言葉の言えるような強い高校生活を送ってもらいたい。

主張

現状を正視せよ

礫陵新聞は、今回、つけて、同じ学舎で学んでいる者として悲しくなる。

今度の盗難事件に対して全校一斉に行なわれた学校側の所持品検査は、一体何を意味しているのだろうか。今度のような所持品検査のやり方で、盗難品が見つかるであろうか。自分が盗んできた物を、誰が好き好んで所持品検査の時にさし出すだろうか。プライバシーの侵害と非難されるかもしれないが、こういう際には徹底的に調べるべきではないだろうか。これでは、単なる形式的な物に過ぎないと思うのだが。

"盗難"を大別してみると、スッックや上ばき等の"盗難"のように比較的悪意のないものと、金銭や時計等を自分が利益を得ようとして盗むものとに分けられるだろう。

前者は、自分の物が見当たらなかったり、取りに行くのが面倒だったりする時に、間に合わせの為、そこらにある他人の物をはいていくというものである。こういう人達は、自分の物は持っているのだからその借りた靴は用が済んだらその場で捨ててしまうだろう。

この種の"盗難"は、日常茶飯事のごとく起こっている。たかが靴の一足や二足というような軽い気持で、他人の靴をはいているのではないかと思う。だが取られた者にしてみれば、又、買い直さなければならない。買い直すまで、被害者は大変不便な思いをするし、第一"盗難"に合うという事は、決して気持の良いものではない。

後者については、今更とやかく言うまでもない。本人の自覚を待つのみである。

若高生は、若松区内から選ばれて来た者ではないのか。それなのに、何故自分で身につけておくことだ。

"盗難"が次から次へと発生するのだろうか。

我々はこの"盗難"に対していつまでも受身でいては、それはなくなりはしないだろう。そこで、もっと積極的に"盗難"をなくしていく様にしてはどうだろうか。それは、自分の所持品に対しては、自分で責任を持って管理することである。当然前の事の様だが、案外守られていないものである。現に、自分の持物全部に名前を書いている人がどれ位いるだろう。こういう無責任さや、親のすねをかじっている我々のあまさが、盗難を引き起こす原因となっているのではないか。

現金、時計等は、出来るだけ自分で身につけておくことだ。体育等の時には、見学者か先生に預けておくことである。特に会計は注意してもらいたい。それから、部室内の諸管理には、各クラブ共気を配ってもらいたい。

とに角、各自若高生としての自覚と誇りを持って、この若高名物？"盗難"を絶滅し、楽しく明るい学園をつくっていこうではないか。これから入ってくる者の期待を裏切らない為にも。

先輩として

読者の協力を

楢原孝

若高新聞部の発行紙である『礫陵新聞』を今回で百号の発刊となり、一応先輩と言われる私も大変にうれしい。

一口に百号と言っても、これまでには数多くの苦労と部員達相互の協力、何にも増して忍耐強さの産物である。

しかし、何と言っても、毎号欠かさずに『礫陵新聞』を読んでくださる生徒諸君の協力が一番の推進力なのである。

読者がいなくては、どんな本でも週刊紙でも、文学でも成り立たない。その点、読者こそ主者だと言えるかも知れぬ。

『礫陵新聞』においても、読者は勿論たいせつだが、色々と苦労してやっと刷り上がった新聞を読ますず破ったり、机の中に押し込んだりしないで欲しい。

こんな事を言うと変だが、確か生徒諸君は、毎月新聞代として、いくばくかのお金を払っているのを御存知だろうか。

金だけ払って読まずに捨てるのは勿体無いではないか。

自分達のお金で、どういうものが作られているかを、拝見しようではないか。

読んだ後にも、弁当を包むとか机の上の汚れを拭くとか、鼻をかむとかはできる。

現在『礫陵新聞』を可愛いがってくれぬ生徒がいるとすれば、私だけでなく、今までの先輩の方々を始め、新聞部員の方達も大変悲しむ事だと思う。

生徒会執行部と共に、生徒諸君のより良き代弁者たる若高の『礫陵新聞』を読もうではないか。

深い理解なくして、学校の様には行事、生徒会執行部の運営部の批判は許されない。

現在、生徒諸君の中に、執行部の活動に、深い関心を持ってる人は、事実、余り多くないのではないか。

生徒全部が、熱心に活動せると言うのではない。

Too many cbooks spoil the lroth（船頭多くして、船山に登る）のたとえがある通りである。

学園内の事情を知ってから、良き協力者、または良き批判者になろうではないか。

そうすれば高校生活も、より充実して来る。

そのためには『礫陵新聞』を読んで欲しいし、どんどん投稿して欲しい。

私自身、余り熱心な部員だったとは言えない。その私がこういう事を言うのは、おかしいのだが、卒業してみると大変なつかしや、部の将来が気掛りなのである。

締めきり間際になって、あわてて書いたので、全体にまとまりがなく、文章も拙いが、その点は勘弁してもらいたい。

百号おめでとう！

田辺久美子

百号発行、おめでとうございます。待ちにまったこの日を迎えられる皆さんの喜びは、どんなに大きいことでしょうね。私も、この知らせを聞いて「ああ、やっと礫陵新聞も百号目になったのか。」と、感無量の思いです。

礫陵新聞が出来たのは二十年前で、若高が、まだ若松中学といわれていたころからでした。二十年の間 若高には、いろいろな事があったことでしょう。しかし、礫陵新聞は、若高と共に歩み、私達の大先輩の努力により、今日まで成長してきたのです。その苦労は大変なものだったと思います。私も、在学中、一年間程、新聞作成に、たずさわった事がありましたが、発行するまでの苦労は、言葉ではとてもいいつくせません。新聞が出来るまでの過程を知っている方はおそらく少ないと思いますが、一回発行するために要する準備期間は、一ケ月以上もかかり、毎日〈〈遅くまで残って編集会議記事、取材、割り付け、校正と目のまわるほどの忙しさでした。だった一つの記事を書き上げるのに、一週間程かかり、何回も何回も書き直しをさせられたりしましたが、やっと書き上げたと思うと次には一番頭が痛い、割り付けがまっていました。割り付けというのは、決められた区画の中に記事をおいて見やすいように組み合わせていくことです。まちまちの行数で記事の軽重も違うものを決められた範囲内においていくことはとても難しいことでした。このように苦労して作り上げても満足出来る結果を得ることはほとんどありませんでした。けれども一昨年に朝日新聞の学校新聞コンクールで"努力賞"をもらいましたがこれもクラブの人が一団となって新聞を作ったものだと思っています。だが今度はいつもよりも二倍、三倍、神経を使い苦労したことでしょう。

若高の皆さんどうか新聞部の部員に拍手を贈ってあげて下さい。私も新聞部の先輩として、若高の一卒業生として拍手を贈りたいと思っています。それてこれから後も一段と成長した、素晴しい新聞を作ってくれることを信じています。又、新聞を作るのは小数ですが、礫陵新聞は若高生全員のものですこれからもどんどん活用し、盛り立てて下さい。

兎に角 部員諸君の一層の努力と生徒諸君の励ましとで『礫陵新聞』を一層良い新聞にしてもらいたい私の希望はこれだけである。最後にもう一言、百号の発行、"おめでとう。

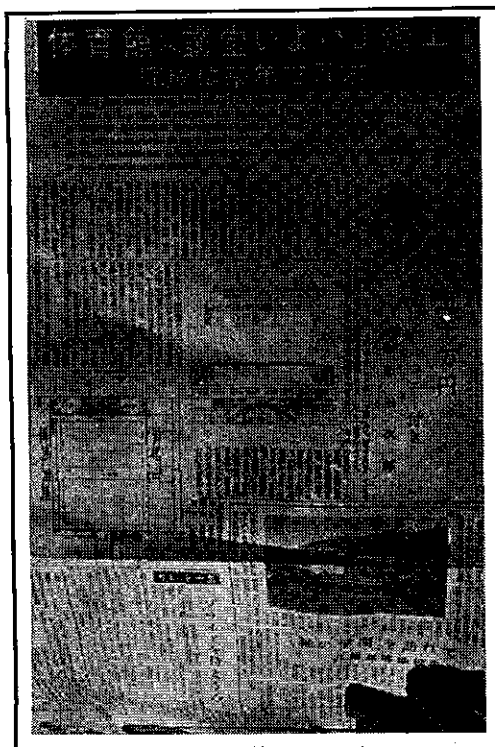
和洋生菓子は
ときわ菓子店
明治町4丁目 TEL ㊻1421

本格派テクニックの店
D・P・E 6時間仕上
カラープリント 48時間仕上
証明写真 3時間仕上
アサヒラボ
本町六丁目

靴とカバンの店
ヒサヤ
本町銀座 TEL ㊻ 5163

目で見る高若十二年

〝礫陵新聞〟の初号を発刊して今年ですでに二十年。実に百号の発刊を迎えるに至ったのである。一口に二十年と云うが、その間、何千何万という数多くの先輩の涙と汗と血によって、現在の若高に発展していったのである。ここでは過去二十年間、先輩達の歩んできた道を、若高の歩みと共に追っていき、その主なものを写真を用い、校舎の全面改策を始め、本館での火災、演劇部、剣道部の活躍等の当時の新聞を掲げてみた。又、写真も今までのマンネリ化を打破する為、あらめる方法を用いて、思い切ったものにした。



体育館建設着工

校舎改築五ケ年計画　第六六号

校舎第二期工事完成

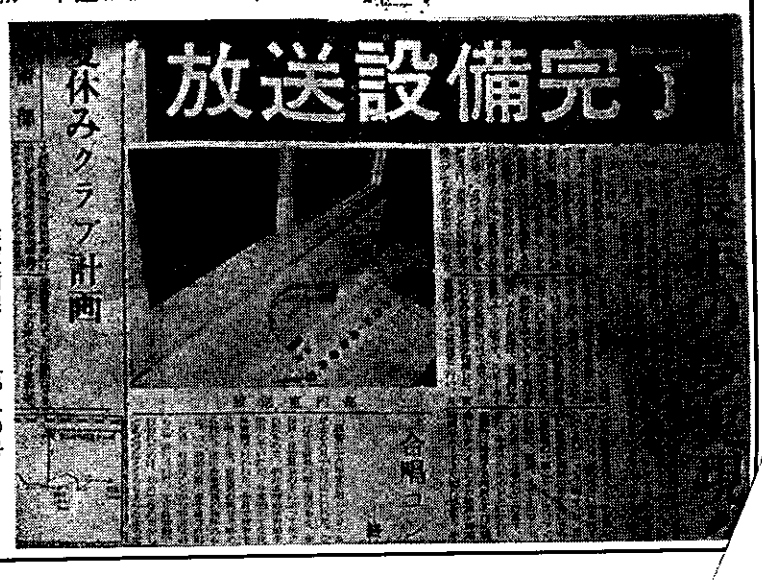
執行部退陣　第六八号

演劇部文部大臣賞受賞　第五六号

火災事件その後・　第七八号

玉竜旗争奪戦二年連続優勝　第75号

着々と完成する第二運動場



昭和三八年放送設備完了　第八〇号

より幅広い発展を
――クラブ紹介――

〔文化部〕

我々の若松高校には、三十近くのクラブがある。しかし、このどのクラブにも入っていない人が多く、また、入っていても時々しか行かない人も多い。現在どのクラブにも入っていない人は、このクラブ紹介を読んですぐにどれかのクラブに入って多いに活躍する事を希望する。尚、入っていても、時々しか行っていない人も、特別の用事がないかぎり、出席して多いに活躍して下さい。

化学部

中世の錬金術に始まる化学は、今や異常なまでの発達をとげて、我々の生活から切っても切り離せない存在になっています。我校化学部は、以前は地学にも関係しており霧島附近にまでも岩石や水質検査の為の試水の採集に行ったりしたそうですが、現在は化学一本でやっています。それも学力や費用の関係上、無機、有機について主に活動しています。

今年の最大の活動目標として「洞海湾の水質検査」を上げています。これは一昨年から、活動を始めましたが、予定通り進行せず、部員一同今年こそは、完成させようとハッスルしています。

現在の部員数は、十五名程度で内二年生（旧一年生）は、三名であるが三年生も文化祭までは、頑張っている。毎週二回（水、土）課題研究をし、あるいは夏休みや冬休み中などの自由研究などは、興味を大変そそるものだ。

ところでクラブ活動は、いつでも楽しいとは限りません。（特に化学部では、我々の体験からというと、自己との戦いです。何故そのようになるのか、どうすればそうなるのか、という疑問を探しだし、自分で調べ、自分で実験してそれらの理由を確めるのです。何度も、何度も失敗して、ためいきをつきたくなることも、少なくありません。しかし我部員にとっては、たとえ失敗を重ねようとも実験している時の気持は、真剣そのもの、感無量なのです。）このように、クラブの意義は、その中にあっての人間形成、あるいは、それを通じて、自己の最高の能力を発見するという事にあるためにクラブ活動には、積極的な態度で臨めばよいと思います。そうすれば、例年のような退部者の数も少なくなると思います。だからよく考え、自分の能力を、発揮できる部を見つけ出し、退部することのないようにしましょう。

尚一般生徒を対称とした化学実験講座を開く予定です。第一回は酸素の実験で、開催日は五月中旬一般生徒の多数の参加を希望します。

物理部

新入生諸君、まず最初に言わせてもらおう。

入学おめでとう。君達は、大きな夢を抱いて、若高へ入ってこられたことだろう。その夢を実現する為、体育各部又文化部へ入部されるであろう。その選択は、君達の意志にまかせよう。とりたてて物理部を売り込む気は無いが、諸君がクラブを選ぶ上での目安として、今年度の物理部の方針をのべよう。

今年度の方針は、計画性をもたせるということ、その意味において四つの班を設け、各班に研究課題を設ける。その結果あるいは成果は、月一回の反省会で発表し質問を受ける。四つの班のまず最初は、気象観測班。昨年十一月から作業して来た百葉箱も、途中材料不足の為一時ストップしていたが四月下旬もしくは五月上旬には出来上る目安もついた。又、観測機械も大体そろった。次に天体観測班。主に夏休みが活躍の舞台となるだろう。今年度の部費の三分の一を占める値段の望遠鏡で大いに活躍するつもりだ。

次にアマチュア無線班　通称ハム。校内における唯一の校外活動の場として部員は大変諦めに思っている。現在免許者が一人という状態だから一、二年生に期待している。ハムは、誰もが一度はあこがれるのではないだろうか。

次に一般物理実験班。一週間に一度、十曜日を実験日と決め　光・波などの諸実験を行なう。又、これから免許せる限り手を広げるつもりである。

その他として、ラジオ等の組み立ても行なっていこうと思っている。

女生徒には、とかく敬遠されがちの部だった。その原因の一つに大変難しいことをやるのではないかと思われがちであったことや、今までの活動が余りにも計画性のない活動であったからではないかと反省している。それで今後は、目標をもっとはっきりさせ、計画を立て、内容のあるクラブにしたいと部員一同はりきっている。

人形劇部

先づ最初に皆さんは、人形劇部とはどんな事をしているクラブか知っていますか？「知らない!!」そんな事では困まりますから、簡単に紹介したいと思います。僕達の最初の仕事は、子供達に喜ばれかつ、それによって子供達に大きな純粋な夢を持たせる様な童話や伝記等のいろんな本を探します。本が定まったら、これを脚色してセリフの練習に入ります。皆で色々手分けして、背景や小道具を作ります。こうして、一つの人形劇が出来る訳です。こうして出来た人形劇を持って、区内の保育所、養老院　その他の施設を慰問するのです。

石とうで型をとり、紙をはり合わせそれに色をぬり、髪をつけた人形でも子供の心の中では、もはや人形ではないのです。子供達の愛すべき、にくむべき生きた役者なのです。そんな子供達の顔は、真剣です。

僕達は、子供達が劇の中に入り込んで、自分も一諸になってうなずいている子供達を見ると、一つの人形劇を作り上げる迄のいろんな苦しかった事も、いつの間にか喜びに変わるのを、心の中に覚えます。そんな人達の集いが、人形劇部「たけのこ」なのです。僕達部員の希望は、子供達に大きなきれいな夢を持たせる事です。

音楽部

今年の行事は、KBO合唱コンクール、校内合唱コンクール、文化祭、他校音楽部との交流会、そして第四回になる発表会と数多くある。三年生にとって、最大の目標であるKBO合唱コンクールが先ず今学期、七月初旬にある。例年そうなのであるが、我が音楽部の欠点は、ボリュームのなさ、つまり、部員の少なさ（特に男子部員）にある。西部合唱コンクールもそうであった。テクニックやファイトの面では、決して他校に劣るものではないと信じている。少なくとも部員五十人は欲しい。オリエンテーションを終えたが、今だ一年の男子は、一人だけである。もし男子部員の入部が少なければ来年から女声合唱団ということも考えられる。〝音楽というものは、女性だけのものではありえぬ、見よ！偉大なる音楽家のほとんどが男性ではないか！〟誰か先輩が積んできた伝統を音楽部を支えて下さる人はいないものだろうか。

音楽部に限らないが、クラブ三年間の生徒は面白い事もあり、又苦しい事もある。その困難を乗り越えた時こそ、これだと手にとって解けるものではないか。我々の成長がそこに確かにある、あるはずだ。雑談、ゲーム、見方によっては実にくだらない事だ。だが先輩は、このくだらないことからも自分の成長をつかんでいるのだ。さあ！迷わずクラブ活動に参加しよう、やって見なけりゃわからないのだ。

〝音楽部ーフンイキー実に良し　良き先輩多し〟

地理部

新入生の皆さん、地理部では昨年まで班活動を主体としていましたが、今年からは全部員で同じ課題について研究する方針です。

さて今年の地理部の活動計画を次に述べますと、四月～五月は「地形調査」、六月～七月は「調査旅行」十月～二月は「研究会」となります。「地形調査」とはたとえば石峯山や皿倉山などの調査です。「調査旅行」は夏休みを利用して各地の地理を調査することです。昨年は山陰方面でしたが、今年は鹿児島方面の予定です。「研究会」とは日頃各部員がそれぞれやりたいと思っていることを話し合って実行することです。尚、色々な活動に伴い模型地図等を作ったりします。地理部といえば肩苦しい感じを受けるかも知れませんが、決してそんなことはありません。「楽しくしかも内容の充実した活動」というのが地理部のモットーです。一年生の皆さん、地理部へ入部されるよう、部員一同希望します。どうぞ入ってチョウダイ！

生物部

現在、昆虫・植物・園芸・プランクトン等の活動を行なっています。各班は研究課題に従って採集や実験を行ないます。入部者は現在の活動の外に個人の嗜向によって生物の範囲の中であれば自由に研究を行なえます。又一つの専門をきめないで植物・昆虫等、各部の活動を行なう事も出来ます。

生物部の特色：クラブ内がまとまって先輩等との関係がスムーズにいってます。これは、夏休みのキャンプで同じ飯合の飯を食べたり、採集等で青空の下をかけ回ったりしている内にできてくるものです。

と思います。生物の活動だけをするクラブではなくて毎日の授業だけを受けていて足りない物を補う、そう言うクラブに生物部をしようと毎日努力しているのです。根気強い一年生を望みます。皆さん、クラブに入りましょう。生物部へ入って下さい。

映画部

映画部とは一体何をするクラブであろうか。新しく入学した一年はもちろんの事、在学中の二、三年でもその活動について知っている人はたぶん多くないであろう。

では映画とは何か、最近ではスケールの大きい、莫大な費用と時間をかけて作られる映画が多くなり映画芸術とまで言われ、各国の大学にも芸術学部映画科や監督養成科が設けられている。

考えるに映画の中に芸術と総称される物がすべて織込まれていると言っても過言ではないと思うのである。たとえば撮影による動く写真芸術、セットや風景による美術、建築芸術、俳優による演劇芸術、シナリオライターによる文学的芸術、名作曲家によるスクリーンミュージックその他、それから忘れてはならないのは監督の個性と才能とその作品にうったえた感情そのものである。たとえば文学の好きな人が本を読み、少なからず人生の糧とする様に、又絵の好きな人が自分の感情を絵に表現し、あるいは人の絵を見てその人の感覚をつかみ取る様に、映画ファンはその監督の作品から何かを感じやはり人生の糧とするのである。本当の映画というのは単なる娯楽ではなくワイドスケールの芸術なのである。

この様に映画部ではなるだけ多くの人に良い映画を見てもらおうと映画会社と交渉し、割引券発行を行なったり、映画に対する意見交換など行なう。又運動会や若戸大会には八ミリ撮影機を使用して記録映画を製作するなどその他色々な活動を行なう。

最後に一番大事なのは北九州に高校は多しと言えども、映画部という単独のクラブを有するのは若高のみである。だから部員一同大いに頑張って行きたい。

放送部

放送は報道という仕事の中でも最も重要なものである。

報道の歴史の中では新しいものであるが世界の出来事を敏速に、かつ正確に人々に伝えるものとしてなくてはならないものであろう。その点においては、放送は新聞以上である。むろん若高の放送部はそんなものとは、縁遠いが、毎日放課後の各部への連絡や、非常事態にそなえいつでも万全の準備を整えている。ただ放送室が職員室と同居していてせまく機械類を置くと人間の入るのに精一杯ですので放送室をもっと広くしてもらいたいですね。

最後に、一年生男子の入部を求む！

吹奏楽部

我が吹奏楽部は、発足してまだ三年足らずで中身も充実していません。楽器も人数もわずかですが今年は立派な先生が見えられて十員一同心を入れかえて、はりきっています。

まず活動状況（昨年度）をふり返ってみますと、七月の若戸大会九月の文化祭、連動会、十一月の発表会、三月の予餞会、それに野球部の応援などです。こうのように、まだまだ活動範囲も狭いので新任の梅本先生を中心に、部独自の発表会などを開きたいと思っています。又、入学式や卒業式にも音楽を取り入れて、なごやかにしていきたいと思います。吹奏楽としての最高の念願でもあるコンクールにも出場したいと部内で話も出ています。そのためにも最近、梅本式練習方法？でやっています。この方法というのは、まず基礎である腹式呼吸を徹底させるため腹筋運動、音を良くする為のロングトーンです。

このように吹奏楽部は今までと違って、練習にも成果がかなり上がっています。

これからも梅本先生の指導のもとに、一生懸命頑張っていきたいと思ってます。

まだ人数が足りませんので、どうか一年生の諸君入部をお願いいえします。入部希望者は、放課後にでも音楽室においで下さい。

演劇部

演劇において、北九州屈指の名門校、若高。そのバイタリティと新鮮な感覚を生かし、昨年度は県下五十二校中三位という、見事な成績をおさめ、本年、全国大会出場を目標に、日夜、懸命に活動を行なっています。

楽しいクラブ活動をモットーとし、一、二、三年生の家庭的なムードは、若高にクラブ多しと言えど、演劇部にかなうクラブは無いかと思います。

心に思った事、感じた事、それを劇によって訴える。やっていて『価値ある仕事』と心から、そう感じる事の出来る演劇。演劇はすばらしいものです。

現在、劇作成にあたり、新入部員を募集しています。演劇に興味のある方、照明等をやってみたい人は、今からでも、どんどん部屋に来て下さい。いつでも大歓迎です。

箏曲部

空々は、人工衛生が打ちこげられ、地には毎日血なまぐさい交通禍が報ぜられている時、妙なる琴の音を鑑賞してなどということは矛盾も甚だしいようですが、古人曰く「忙中閑あり」とか。

多忙な毎日であるからこそ、せめて心の安らぎを得る時間がほしいものです。

今年の箏曲部は、クラブはじまって以来の盛況ですが、一人へり二人さりということなく、お互いに切磋琢磨しつつ、日本古来のこの音楽の道を修得して行きたいと思います。

御指導下さる織田先生とも、すでに連絡をとりまして、先生も今年はとはりきって下さっています。然し要は道を学ぶものの心がまえです。

若高文化部の一偶に箏曲部健在なりも、楽しいではありませんか。

若高文化部の皆さん、忙しい高校の三年間ですが、お互いに頑張りましょう。

名産　若松うに
大庭春香園
若松区明治町
TEL ㊻2789

時計・メガネ・印章
マルミツ
若松区中川通り二丁目
TEL ㊼2638

辞典と参考書
石松書店
本町四丁目　TEL ㊻2415

合資会社
ツツミ毛糸店
北九州市若松区本町六丁目
TEL㊻3896・2985

運動具の事はすべて
みずの運動具店
若松区本町6丁目
TEL㊻2246

龍そば
本町銀座　TEL ㊼4320　TEL ㊼4047

目標を全国大会に

……休日も返上で……

〔運動部〕

美術部

美術部とは、油絵、水彩、デザイン、石膏デッサン、彫刻等を創作する部で、美のあらゆる面を追求していく、最も個性的かつ芸術的なクラブであります。

不幸にも予算が少い為、せっかくの個性も伸ばしきれぬ現状です。

しかし、新入生は予想以上のテクニックと個性とセンスを持ち合わせていて　張り切っていますので、我々古ダヌキも感化され、新学期と共に我々も毎日頑張っています。

華道部

部員数は百六名、女子ばかりのクラブです。流儀は池坊で二人の先生から習っています。

一本一本の花を真副体など基本をおり込みながら生けると先生が説明を加えながら直して下さいます。

華道部の欠点としては多人数であること、クラブとしてのまとまりがないということですが他のクラブとのかけもちのできるという点はこのクラブの長所だと思います。

華道部の一年間の行事としては

一、文化祭出品

二、二学期の終わりに正月用生け花をするということです。

写真部

学写連の春の撮影会に参加しましたが今後も進んで参加するつもりです。又、郷土若松の本当の姿をレンズを通してみつめたいと思います。月に一回部員の技術向上のため個人作品の批評会を開くつもりです。

特に女性は写真に弱い等と言われてか、例年女子部員が少ないのですが、近頃百百万式のカメラ等も多くなり、写真を写す事は単簡で楽しい事ですから、是非入部して下さい。

最後に身分証明書に写真撮影で計画がまずかった為、混乱して、皆さんに迷惑をかけた事をおわびします。

英会話

英会話部員というと、固苦しそうに聞こえるかもしれませんが、その様な事はありません。練習は正しい発音やイントネーションでしゃべられる英語をじかに耳から聞き、それをまねることから始まるのです。

その点今年は小型ですが、プレーヤーを一台購入しましたので諸君は生きた会話を自から吸収できるのです。その事では三年は援助を惜しみません。

新入生諸君。わがクラブでは毎日生きた会話が聞けるのです。そして、一年生が入部すれば、立派に外人とでも話せるようになる事を保障します。

英会話に興味を持っている方、その他、入部大歓迎です。

茶道部

皆さん達の中には、茶道部という部を何かきゅうくつな部のように思われておられる方もいらっしゃると思いますが、決してそのような部ではありません。

練習は水曜日と土曜日。週二回行なっています。土曜日は先生に来ていただいて練習を行ない、それがすむとお茶とお菓子をいただくようにしています。

また炉開きや初釜などの年行事を行なっています。それから他の学校の茶会などに行ったりして、楽しみながら実際にいろいろなことを経験することのできる楽しい部です。それから茶道部は女子だけの部ではありませんので男子の方も大いに入部して下さい。

歴史部

部員四十名、それぞれ縄文・弥生・古墳・中世の各班に別れて研究活動を進めている。縄文・弥生各班では、主に土器・石器・人骨の研究。古墳班では、若松近辺の古墳と古墳の副葬品について、中世班は、主に城等の研究にとりくんでいる。

別に、年に一回の恒例である史跡巡りを行なっている。そして、月に一度は若松近辺の史跡を、調査するために出張、夏休みには調査とレクリエーションを兼ねたキャンプを二泊三百位の日程で行なっている。

文芸部

高校生時代は「悩み多き時代」といいます。我々文芸部は、高校生特有の現実と理想の矛盾、社会へ対する不満、恋愛問題などをディスカッションを通して部員の親密感を高めています。

一年間の行事としては、一学期に一回、文芸部員の詩集、「うるし」を発行しています。又、「文化祭」には、作家研究、詩評、作者の一生などを発表しております。二学期の終半から、二十年間の伝統ある、「つぶて」の発行にとりかかります。文芸部は、この「つぶて」にその年の若高文芸部の活動評価をかけているのです。

高校生時代に、よりよい人間性を育てていきたい方に、まず、この文芸部をお勧めいたします。

新聞部

毎日放課後遅くまで残って"礫陵"の発刊に全員が頑張っている。初号が発刊されてから今日まですでに二十年。幾多の苦難を乗り越え、すでに先輩の築き上げた礫陵新聞百号を迎えることになった。我々はこれを機会に、より一層努力していくつもりである。

現在の礫陵新聞について不満の方が数多くおられると思う。ゴミ箱の中が、これを物語っているそこで、何をどうしてほしいとか具体的にそれを示してほしいのである。現在の学校内での不満等をどしどし投書してほしいのである我々はこれを歓んで迎える。

我々は皆さんと共に考えていきたいと思っています。

陸上部

陸上競技とは人間が地面に立っているということから生まれた最も基本的で本能的なスポーツです又ある面では孤独なスポーツとも言うことができましょう。

自分の中にほんのわずかでも隙ができると、戦いに敗れ、記録が落ちる。陸上競技とはそんなスポーツなのです。

三年前、讃井先生を顧問に迎えメキメキと実力をつけています。昨年も九州大会、全国大会に出場で今年も二十数名の部員が一丸となって、福井全国大会目指して頑張っています。特に女子のリレーに力を入れています。根性ある者来たれ！自分に勝てる者、我等と共に、走り、跳び、投げようではないか！

水泳部

我が水泳部は、小数精鋭主義である。と威張ってはいるものの、部員が少ない結果そういう事になってのですが、部員が少なければ少ないなりに何かとりえがありものです。我が水泳部においてはそれが団結力という形で表われて来た。

昨年の丁度今頃、前キャプテンを先頭に現在の二、三年が一致団結し、互いに雰囲気を盛り上げながら練習に励みました。その結果としてまず、六月の北部大会で準優勝、若戸大会では地区をよせつけず、遂に秋の北部新人大会では優勝を成し遂げたのです。

部室内でのムードも、スポーツクラブにふさわしい、健康で明るい雰囲気に包まれています。新入生もかなり入部しましたし、今年も昨年同様輝かしい活動を目ざして、少々の寒さ等は吹き飛ばして毎日、練習にはげんでいます。

ラグビー部

グランド全体を楕円形のボールを蹴ったり、持ったりして走り回る。荒っぽく野蛮な規則で、審判には絶対服従、これがラグビーだ

ラグビーには花形プレーヤーが居ません。独走してトライするまでには、あの楕円形のボールがどっちに転がるか、わからない。（ここが又面白い）ひねくれたボールのあらゆる部分に十五人全員の力が及んでいるのです。

ラグビーはチームワークのスポーツです。こと数年の成績を申し上げますと、二年連続北九州地区新人戦優勝。（昭四十年度、四十一年度）県大会準優勝。（昭四十年）準決勝進出一回と今や南部の福岡電波、福岡高校と並び称せられるようになりました。今年度に入ってからも六勝一敗と快調です。練習はきついが、それを乗り越えて、夜遅くまで汗を流した人たちが、勝利者となるのです。

これが「ラグビー」なのです。

ハンドボール部

ハンドボール競技というものをあまりにも知らない人が多いと思いますので少しばかり競技内容について話してみたいと思います。

ハンドボールは七人制でキーパー一名プレヤー六名で行なう。

競技の印象というものは、ダイナミックで迫力ある立体的なスポーツである。

競技のルールはさほどむずかしくない。ですから一年生諸君にもすぐ覚えられるでしょう。ですから皆さんも大いにハンドボールにしたしんで下さい。

庭球部

我が庭球部は、主将を中心に活発な練習を続け、全国大会優勝をめざしている。先輩は少人数だがみな練習中は気を引きしめ、特に三年生の息づみは、ひとしおである。三年生は高校生活最後の一年でもあるので、真近に控えた試合の為に、ハッスルしている。主将は、気持のやさしい人で、僕等、一年生のもっとも尊敬する人である。又、他の先輩達は、どちらかと言えば、一年生の見方で、いろいろと後輩の立場でアドバイスしてくれる。こんなよい先輩達が、中心となって、わが庭球部は、連日練習に励んでいる。

体操部

体操（団体徒手）とは六人が一組で手具を持ち、音楽に合わせて踊る体操です。器械体操程目立ちませんが、社会性と協調性を養うには、もってこいのスポーツです

昨年は新人戦でも優勝し、県大会まで出場しましたが惜しくも優勝をのがしました。でも貴方が入ってくれれば、勝利の栄光は我が上に輝く事でしょう。

美と健康を保ち、体力の向上と精神の統一を助けるのにきっと役立つでしょう。

山岳部

若高山岳部は部員三年生八名、二年生六名、一年生八名で日頃から体力・精神力をつけるために、マラソンなどを行なっています。

毎週土曜日には、石峯山に登って専門的な事をやっています。

純粋なスポーツであって、冬山には登りません。一年生は祖母山で二年生は北アルプスで合宿を行ないます。

剣道部

新一年生の諸君、我が伝統ある剣道部をご存じあろうと思う。部設以来　数々の大会で好成績を残し、近年、指導山崎先生のもとで黙々と練習に励み、玉竜旗大会で連続優勝しました。

「剣は人也」と言う言葉を、知っているだろう。剣の道は人の心に通う。剣道をやって、邪念を捨て、正しい心を持って、長くかつ短く人生を送ろう。そして、今年は、またかってなく、先輩諸君から期待をされているので、期待を裏切らないように練習に励み、目標を達するように、頑張っている。

新一年生の諸君、武道場へ来たまえ。練習姿を見たまえ。これとそ九州男心意気ぞ。

バレー部

バレーを競技する上で一番大切なことは何か？と聞かれれば、それはやはり「精神力」と言えるでしょう。この事は毎日の練習中、又試合中において我々がいつも痛感していることです。特に試合において実力が接近している場合ハッキリと現われます。スポーツ全般を通じても同じことが言えると思いますが、我々はバレーを通じてこの精神力を養おうとしているわけです。バレーの上だけで終わっては無意味です。これらの人生、社会生活にも通用する精神力つまり・秩序ある根性・を養っていきたいものだと思っています。

高塔山を背にして

弓道部

弓道部は人に肩苦しく力のいるものと思っていますが、そんなものではありません。みんな弓を楽しんでやっています。

弓道とは自分の心と団体の協力によって磨かれるものです。例えば競射（当ての競争）の時一チーム三人の内一番後の大将が声をかけてチームの闘志を沸かせ、より強くしていくのです。この様な時は、緊張した空気が流れます。

この様では恐しく感じられますが、そんなことはありません。

以上述べた様に弓道とは、身体全体で引き自分の心によって磨いて行くものですから自分に相応した業を応ずることができ、自分を磨く良き場となると思います。

柔道部

今年の柔道部は有望な新人を迎え毎日大いに練習に励んでいますキャプテンを中心にチームワークも良く、又、下川先生もとの学校に来て二年目を迎えられ非常に期待され先生共々頑張っています。特に三年生などは卒業した先輩の実績を引きつぎ、若高柔道部としてはずかしくない様はりきっています。それから今年の目標として

一、北九州大会優勝、すなわち打倒東筑高校

二、金鷲旗大会上位進出

以上の二つですが、目標だおれにならない様実現させる覚悟です。

一年生でまだクラブ活動に入っていない人で、どのクラブに入ろうかと迷っている人は、きたれ！

バスケット部

男子十四人、女子十四人、毎日放課後二時間ほど個人の自覚と永野、大庭（武）両先生の指導のもとで激しい練習を行っています。

各個人が一つのボールにとびつきあることに全力をあげて、うちこむ精神と気迫は、はたから見ていても、気持のよいものであり、各人の人間形成に大いに役立っています。

成績は男子は新人戦で県北部決勝リーグへ進出しましたが、おしくも上位へくい込むことはできませんでした。女子も同じく決勝リーグへ進出しましたが県大会へ行くことはできませんでした。

毎日の練習はつらく、きびしいですが、それだけにやる気がでてきき、どんなこともくじけない根性が備わるのではないのでしょうか

尚、野球部は未提出の為掲載せず。

万年筆は信用ある
松永太陽堂
本町銀座　TEL ㊼ 2721

服飾材料専門店
手芸講習毎週金曜日
午後2時より　7時まで
しらき
若松区明治町三丁目
TEL ㊻ 3686

香りと味のお茶の店
松井松緑園
本町六丁目　TEL ㊻ 2649

味一番チャイナーラーメン
珍軒
本町銀座　TEL ㊻ 5595

あなたのセンスは
メガネで…
アイチ眼鏡店
若松区本町七丁目　TEL ㊻ 3312

親密度を深めるために

一座談会一

心のつながりを

＜上級生と下級生＞

◇去る四月八日に、入学式を終え一年生もようやく、本校の雰囲気になれ、もうクラブに入って活躍している人も多いと思う。中学校に於いてもそうだったと思うが、クラブなどに入ると、とかく問題になるのが上級生と下級生の問題である。

そこで四月二十一日（金）に、まだ入って間もない一年生と、体育部からハンドボール、水泳部、剣道部などの代表者、文化部からは人形劇部、新聞部、生物部などの代表者を交えて、クラブ面、その他の上級生と下級生の問題についていろいろな意見を聞かしてもらいました。

司会者「一年の方も入学して一ケ月、いろいろと学校のこともわかったようですから、一・二・三年の親密を深め、高校生活を有意義に過ごす為に、一つの手段として、この座談会を開きたいと思います。では、さっそくですが、一年の方、二・三年生の印象はどうでしたか。」

一年「思ったよりやさしかった」

一年「校舎が違うので、わかりません。」

司会者「中学の時の上級生と比較してどうですか。」

一年「別に違いません。」

一年「私はクラブに入っているので、クラブの面しかわかりませんが、中学の時より丁寧に教えてくれます。」

一年「高校の方が、住み心地が良い。」

一年「高校の方が、やはり大人びています。」

一年「別につき合わないから、わかりません。」

一年「中学時代は、高校生に対して、少し恐しい様に思っていましたが、言葉使いも優しくて、安心しました。」

一年「高校生の方が、人生経験が長いから貫録があるみたいです。」

一年「私は中学校の時の方が親しみがもてて、楽しく過ごせました。」

一年「知らないクラスの前を通るだけでも何だか恐しい気がします。」

司会者「では、次に上級生に対して敬語を使っていますか。敬語の使用についての意見を聞かせて下さい。」

ハンドボール「主に体育部のクラブ活動だと思いますが、上級生という事を意識してはそのクラブの発展にプラスにならないと思います。一生懸命している時は、上級生もト級生も変わらないと思います。だから、体育部において敬語は必要ないと思います。」

三年「上級生だから下級生に『おはようございます』と言ってもらいたいのはわかるけど、余り敬語は必要ではないと思います。」

三年「ある程度けじめをつけるために敬語は必要だと思いますが、年の隔たりは、一つか二つだから、もっとフランクに話した方が親しくなると思います。」

二年「下級生と接するのはほとんどありませんが　挨拶くらいは気分的にむこうからした方がさわやかです。」

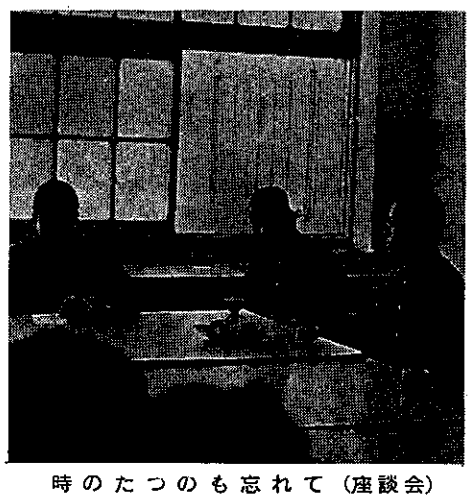
人形「僕は敬語は使いたくありません。僕は意味がないと思います。気軽に話した方がチームワークがとれてよいと思います。」

剣道「私は反対です。始め、敬語を使うことに反発を感じていましたが、今では使わないと変な感じがします。」

一年「先輩と話すとはないけれど、やはり敬語は使った方がいいと思います。」

三年「親しい間柄なら使う必要はないと思います。」

二年「私は中学校の時、先生に対しても敬語は使いませんでした。敬語を使うと、おかしくて……。」



時のたつのも忘れて（座談会）

剣道「僕は剣道部ですが、剣道の道は礼儀に始まって、礼儀に終わると言われています。僕もそう思います。」

人形「これは体験を通してですが人形劇の上で敬語は必要ないと思います。」

敬語は必要か

司会者「では、敬語とはどんなものだと思いますか。」

二年「心の中で思っている事を、態度にあらわす時に使うのが敬語だと思います。」

三年「僕も今の意見に賛成です。心の中で本当に尊敬していて自然に出てくるのが、敬語だと思います。」

三年「敬語を使っても、クラブのやわらかいムードは、出るんじゃないですか。」

三年「敬語を使わなくても、やわらかい楽しい雰囲気は作られると思います。」

司会者「敬語の問題は一応意見が出尽した様ですから、次の議題に移りたいと思います。上級生から下級生へに望む事、注意などを聞かせてもらいたいと思います。」

三年「下級生の皆さんは、わからない事があったら、自分だけで悩んだりしないで、相談して下さい。年も多いのですから、その中にはわかる事もあると思います。」

三年「さっきの敬語の問題と重なるかもしれませんが、私個人としては、余り丁寧な言葉は使ってもらいたくありませんしかし、それといって乱暴な言葉はいやですが……。」

二年「クラブ活動はもっと活発にしてほしい。」

水泳「僕は水泳部ですが、なま半かな気持ちで入部してほしくありませんね。入ったからには覚悟をしてほしいと思います。これは文化クラブでも体育クラブでも同じだと思います。」

司会者「有難うございました。では次に上級生への要求を言って下さい。」

新聞「僕は新聞部ですが、まだまだ一本立ちするにも、出来そうもありません。上級生にもう少し、活動の仕方等を注意してほしいと思います。」

一年「話は変わりますけど、盗難の件は上級生が犯人だと思います。スリッパぐらいという軽い気持ちでも、やっぱりやめて下さい。」

司会者「盗難の問題は考えなければならないと思います。他に上級生への要求はありませんか？　別に無い様ですので、よく新聞紙上などで見かける暴力事件について、皆さんの意見を聞いてみたいと思います。」

剣道「僕達、剣道部では、何か問題があってもなぐる様な事はしません。皆、正座して一人一人に説教をします。その事によって　チームワークがとれているのだと思います。」

水泳「一、二年前に確か、暴力事件があった　思います。いちがいに暴力事件といっても、下級生をなぐるのはある一面では良い事だと思います。ゴタゴタいうよりなぐった方がすっきりすると思います。憎しみをこめたものでなく、愛情をこめたいわゆる『愛のむち』なら、お互いに最後には気持ちが、通じ合うと思います。」

クラブの理想像とは？

二年「今の水泳部の意見ですが、親と子の場合ならそれもいいでしょう。でも友達どうしでそれもいい年の高校生がなぐられるという事は、自尊心も傷つけられるし、話し合えばわかるのではないのでしょうか。」

水泳「なぐられて『いやな奴』と思うのなら、なぐることは僕は否定します。でも、それによって下級生に反省の色がみえるのならいいのではないでしょうか。」

司会者「最後にクラブの理想像を語ってもらいましょう。」

三年「大学の六割はクラブで過ごすそうで、高校はその基礎ではありますが、やはり　陸まじく　いつまでも部室にいたくなる様な雰囲気のあるクラブが理想だと思います。」

一年「皆がとけあって、張り切って仕事のできるクラブこそ理想なのだと思います。」

二年「三・二・一年生、男・女生徒が一丸となって活動しているクラブが理想像だと思います。」

三年「勉強の面だけではなく人生経験を、少しかにしてくれるクラブだと思います。」

司会者「クラブによって違うと思いますが、クラブでも言える事は、と下級生の仲が一つ、えば、活動も活発に、最初に、たくさん入一年生も、日がたつにやめていくという現でも少なくなるのでしょうか。

今回は、お忙しいとこにありがとうございました。

先生宅訪問

負けるが勝ち

一校長先生の巻一

仲むつましい校長夫妻

今回は校長先生の御宅を訪問した深町小学校から百メートル程離れた所で、以外に静かな所だった。奥様が私達を洋間に案内して下さると、すぐに和服姿の先生が入ってこられた。昨年の秋から身体の調子を崩され、最近は腸閉塞を煩らっておられた。十七歳迄体温計などは扱った事がなかった程、健康だったそうだのに（年のせいか？）

—御出身地、御出身学校は—

（「単刀直入に聞くなあ」とおっしゃって）飯塚市大日寺に生まれ、連大寺小学校→嘉穂高等学校→広島大学（社会学科）

—教師になられて後の経歴は—

田川高校→高田高校（新潟）浜田高校（島根）を経て校長になられてからは、北九州市盲学校（八幡）→直方高校→本校

—教師になられた動機は—

高校時代、弁護士か医者になりたかったが、結局は、小学校の厳格な教師の影響。

—御趣味は—

笊碁です（ハッ？と聞き返すと「知らないかね」と反対に質問なさって、今度は笑いながら「私は碁がへたです。という意味だ。」と謙そんなさっておっしゃいました。）旅行は好きだがまだ外国に行った事はありません。（笑い）北海道と雲仙もまだです。いつでもいけると思ったが、未だに行けない。スポーツは、学生時代にサッカーと柔道をしました。

—愛読書は—

西田幾太郎の「善の研究」、川上博士の「資本論」難しくて早弁というものはなかった様に思える（笑い）

—先生になられて嬉しかった事悲しかった事は—

There is no road without turning.

—尊敬する人は—

吉田松陰。同じ教育者同士で

—若高生をどう思われますか—

長所はクラブ活動と勉強が平行しているということ、短所はエリート意識があることだ。希望は、若高に入学したなら、自信とある程度のプライドを持って行動してほしい。

—奥様から御覧になった先生は—

（先生は「百点と言うでしょう。」と自信満々。）奥様は「八十点位ですね。残りの二十点はわがままです。」

近頃は少し優しくなられたそうだが以前は亭主関白だったそうである。（「これは年のせいでしょう。」と奥様。先生は奥様が答えておられる時は、ずっと笑っておられた。）

あまり理解できなかったが、これらの本を読まないと学生ではないと言われたし、又読書に制限があった時代だった。

—学生時代の思い出は—

負けるが勝ち（同僚になかなか腹を立てない方がおられたそうで、その方の影響。）

—好きな言葉は—

There is no road without turning.

—モットーとされている事は—

今迄、採点されていたのが反対の立場になった事。悲しかった事はなかったなあ。

—学生時代の思い出は—

遅くなったので失礼した。

投書

教育者と思想

以前より、こういう事が、問題になってきている。そして、世間の批判の的になっている。教育者が、思想を持つことには、少しの批判も、私は持たない。むしろ当然だと思う。が、教育は本来、思想に於いて、中立であるべきはずだ。教育に思想が入っては、いけないと思う。

授業中に先生の口より、思想の色付いた言葉がもれることがある。たとえると私は、戦争という事、事態には、当然反対するが、先生がアメリカは、帝国主義だと言われても、それを自分のものにする根拠がないのだ。

私自身、中学時代に比べれば、ある程度考える事のできる人間になったと思うが、中学以来、先生という人間に、理想というものを持ち続けてきた。その子供が、先生を良い先生だと思い込むのは、人間の良い面を見出すことが出来るからで、先生の考え方の子供への影響は、多大なものだと思う。些細な事でさえ、子供の信頼を生み出し、又、不信感さえも生み出すのだ。

原潜入港反対のデモへ参加。その先生の受け持ちの時間が自習になった。その上、先生は、次の授業の時間に、その批判を行なったと言う事があった。

県知事選挙の際、職員室内に、写真入りの選挙ポスターがはられ選挙当日には、黒板にその票数が書かれるなどと言う事もあった。

闘争に参加したり、主張したりすると、教師たるものが、あのような事をしてと、異端者と見なされがちだ。私は、思想が悪いときえも言われかねない社会に、強く抵抗を感ずる。が、そのような教育者についても、批判したい。

教育者も、一般労働者と同じ様に、給料をもらって、生活するのだ、一人間だ。原潜でも、賃金値上げ闘争でも、メーデーでも、参加に主張して良いではない。育者だからと特別扱いは、いと言うかもしれぬが、まちがいだ。休んでも、ることができるが、しかと一般労働では、別個の育者には、教育の使命が、わる。又、その使命を果ろうが、その使命を負っがある故に、しばられるその使命を果たした上に、べきだ。（三年　K・K）

ちょっと一言

気力ある心構え

新年度が始まり、前期生徒会役員選挙も無事終わった。そこで毎度問題になるのが　立会い演説を聞く時の生徒の態度である。まじめで、学校を少しでも良くしようという心意気に燃えている人達を、ヤジや罵声で包んでしまう。これでは彼らの熱心な気持を挫けようというものだ。ヤジだけとは限らない。頻繁におこる盗難のことでも然り。全てに対して中途半端で無気力な心構えが、あのようなヤジや盗難となって表われ、悪い校風をかたちづくっているのだ。

生徒諸君はそういう事を、しいと思わないのだろうか。

本当に学校を愛する気りに思う気持があるなら、のようなヤジや盗難は起ないはずではないか。

生徒諸君は、若高に入学多少なりとも、これから高校生活に対する心が希望をいくらかでも、いたに違いない。それが残していった悪い校風をるうちに、いつの間にかれ、それらを悪いことだなくなってしまっている。校風を残さないために、生徒諸君の反省と自覚をやまない。

結果は上でき

好評のフォークダンス
―オリエンテーション―
歓迎遠足

去る四月二十二日(土)、オリエンテーションの一環として恒例の歓迎遠足が行なわれた。目的地は、昨年同様平尾台であった。始め、潮干狩にしようと言う話しが出ていたが、平尾台の方が希望者が多かったので、結局昨年と同じ平尾台となった。だが、一年に一度しかない遠足なので、目的地が昨年同様という点について、二、三年生の間には、不満を持っていた者も少なくはなかったろう。したがって、もう少し他の候補地も考えられたのではなかろうか。

さて、前日までぐずついていた天気もからりと晴れて、絶好の遠足日となり、区役所前を九時すぎに出発、それから一時間三十分あまりのバス旅行の後、吹上峠に着いた。十時三十分、一年生を拍手で迎えた後、昭和四十二年度前期生徒会の候補者の紹介へと移り、そして諸注意等があり解散となった。

クラスごとのリクレーションでは、なんと言ってもバレーボールに花が咲き、澄みきった大空の中に、白い球と笑い声、叫び声などが入り混じって次から次へと飛び上っていった。

いよいよ待ちに待った一時になった。さあ、皆さん！フォークダンスを踊りましょう。小学校の校庭では、もう例の音楽が鳴り響いていますよ。

三年有志の人達が中心となり、リードしていたので、みんなが楽しく踊れたこと、今年は昨年よりも参加者が多く、特に一年生の参加者が多かったことなどは、大変よかったようだ。その一時間小学校の校庭では、生徒と砂ほこりとなごやかさが、満ちあふれていた。来年は、もっとこのフォークダンスが素晴しいものになるよう期待することにしよう。

二時に楽しいフォークダンスが終わって、二時四十分、平尾台を後にした。バスの中――いっしょに歌を歌ったり、勝ち抜き歌合戦などをしたりした。それで、まだなんとなく話しにくかった人達とも、おしゃべりができるようになり、クラスもバスの中のなごやかな雰囲気で前よりもだいぶん打ち解けたことであろう。四時、区役所前に到着。そして、今日の歓迎遠足は幕をとじた。

"新一年生の皆さん！楽しかったですか？"

音楽部合唱で、P、R

クラブ紹介

四月十四日(金)、体育館二階に於いて五時限目より各クラブの紹介が行なわれた。これは、若高の全クラブを紹介することによって新一年生のクラブ加入を促すものである。このクラブ紹介に当って毎年、各クラブの部長から不満の声が上る、というのは、受け持ち時間のスピーチが短かいということがある。例年の時間はわずかに三分。それでこの一年間のクラブの活動を述べなければならない。部長の不満も当然であるかもしれない。又、今年は外部からのヤジが非常に多かった。

部長がステージに現われると何とヤジの多いことか。これは何とかならないかと言いたい。一年生もそれが影響したのか私語が多かった。今年のクラブ紹介はたいした成果が上らなかったのではなかろうか。

生徒会改選によせて

新生徒会長　藤本洋一

我々七名、新生徒会執行部として五月一日より発足した訳ですが今、一番言いたい事、やりたい事と言えば、生徒全員にもっ少しいや絶対に生徒会というものを理解していただきたいという事です。ですから、そのためにも、我々自身も、皆に理解していただける様に努めたい、と思っていますし、若高の悪い伝統とも言うべき盗難についても、風紀、美化委員と共に一致協力して、校内パトロールと防止に重点をおき、よりよい学内生活を送っていただける様がんばるつもりです。

主な行事等は、例年の通りにやっていきますが、よい案、計画、その他諸意見があれば、専門部を中心に執行部を外輪として、実行していきたいです。ですから、各行事、皆さんに良いアイデアと色々気のついた事がありましたら、どしどし生徒会室の方に言いにきて下さい。皆さんの協力をおまちしております。又、そのためにも各委員会の充実に努め、万全の用意を整えていきたいと思います。

と、色々な事を上げてきましたが、切実な願いは、親しみやすい生徒会にするという事です。今の国会の様には"黒い霧"の問題等は絶対に出てきません。信頼してもらえる生徒会こそモットーです。乞う御期待！

新生徒会役員の勢揃い

旧生徒会長　仲光正織

我々半年間の任期が終わるにあたって、今までの各行事や活動について少し反省をしてみようと思います。

各行事を通してみて、いくらかのミスはあったとしても全般的に言うと、ますますの出来だったと思います。又、学校で規定された下校時間を過ぎても下駄箱の中に、スリッパなり、アップシューズ等がある場合には取り上げて、生徒会室で保管すると言う試みをやってみました。これは風紀委員会とも相談して盗難防止の意図で行ったものです。その成果は余りかんばしくありませんでした。

この生徒会活動をやっていて一番感じた事は、一般生徒の生徒会に対する関心が非常に少ないと言うことです。生徒会はあくまでも生徒によって構成されているということをもう一度再確認してほしいものである。先の立会演説会での皆の態度は、その意味では大変残念であったと思います。切に皆さんの協力を希望します。と言っても我々にも多対の責任はあったと反省しています。

今度の新生徒会に盗難の防止、一般生徒の生徒会への関心の問題各行事の充実等、我々の十分出来なかった事をやってもらいたい。

軽音楽の愛好者が最高
〈第四次新聞部アンケート〈マスコミ利用度〉〉

"若高生の目"耳"は、どういうものを聞き、読み、見ているのか ラジオ、テレビ、新聞の利用率によってこの度調査してみた。と言っても、別に堅くるしいものではない。それなのに、ふまじめな解答が多かったのは、はなはだ遺憾であったが、真剣に考えて書いてくれた人達には、心から感謝の意を表したい。尚、結果は集計した順に紹介させていただく。

○　○

まず、ラジオからであるが、音楽番組が他をよせつけず堂々と第一位であった。では何故、音楽番組が皆に親しまれているのか？それは、手軽さがものを言うのだろう。ある生徒の解答に「簡単な作業等は、ラジオで音楽を聞きながらでも調子よくいく」と、あった。次にニュース番組、野球番組に圧倒された結果、時間的に見ると、一番多かったのが一時間であった。以上の様な事が、結果としてでた。

気分的にはたいくつしている時というのが多かった。

○　○

次にテレビにうつる訳だが「最近、寄席、マンガ等、ふえてきているがこの事についてどう感じるか？」とたずねた所、勉強の時間休みに見るぐらいはよいが、それ以上は、だめだと答えた人が非常に多かった。

テレビも、ラジオ同様の意見で音楽番組が第一位であり、時間的にも一時間ぐらいというのが多かった。その次に、ドラマを見る人が多かったのだが、これは娯楽性のつよいものが、相当数をしめていた。

勉強休みに見るためであろう。

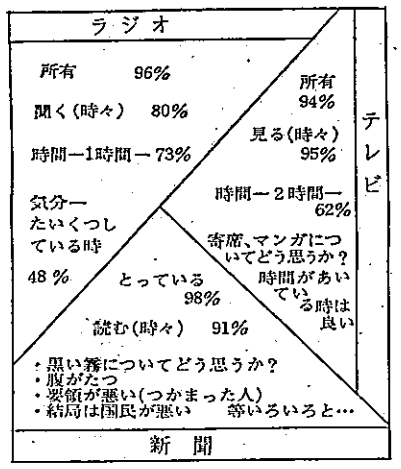
○　○

最後は、マスコミの大衆型新聞についてであるが、"黒い霧"についてどう思うか？とたずねてみた所「結局は、悪い政治家を選ぶ国民が悪い」と解答した人が、一番多かった。中には「日本を、社会主義国にすればよい」と、強烈な意見もありさまざまであった。さて、結論に入るがこれは社会面(普通いう三面記事の面も含めて)が、他の面をよせつけず、第一位であった。

やはり、身近に起る出来事として社会の色々な事が気になるのであろう。しかし、政治面に対しての感心が薄いのには、少々驚ろかされた。二位はスポーツ面、三位は番組面(その日のテレビ・ラジオの番組紹介)であった。

○　○

以下、他の結果は表を参照。三年生に対しては、時間の都合でアンケートを行なってないので御了承を願っておく。



皆さんのお答えは？

―ラジオ利用率ベスト3―

1. 音楽番組〔リクエスト番組〕	82%
2. ニュース番組	8%
3. 野球番組	7%

―テレビ利用率ベスト3―

1. 音楽番組	42%
2. ドラマ〔喜劇、ホームドラマ、洋画〕	42%
3. クイズ番組	9%

―新聞利用率ベスト3―

1. 社会面〔普通いう三面も含〕	82%
2. スポーツ面	9%
3. 番組面	7%

利用率ベスト3

他校訪問

1対6の男女の比
―福岡中央高校の巻―

今回は、裏手に福岡九電記念体育館、総合プールなどをひかえた福岡中央高校を訪れた。

今年で創立六十九年を迎えるこの高校は、校舎もその名残りを残した木造建てであるが、図書館体育館又、プールなどはとても近代的なものであった。昔、女学校であったためか、校舎全体がどことなく家庭的な雰囲気で廊下には、あちこちと花台や額などが設けられ、二階の被服教室の所には、生徒自身の創作であるひな人形が飾られていた。そして、校舎の周囲にはいたるところに、つつじが植えられていて、大変美しいものであった。それから若高にはない進学、就職指導室というのがあって、ここでは進学、就職のための色々な資料が集められていた。

ここで少し、以前西日本一であった図書館のことを、述べておこう。二階立ての建物で、一階は、視聴覚教室・書庫・一、三の会議室などがあり、視聴覚教室では、いつでもスライドが出来るようになっている。二階は全部、閲覧室となっており、机や椅子がきれいに並べられていた。本の数は、二〇五〇〇冊で、一三〇〇〇冊が閲覧室に置いてあり、残りは書庫に納められている。試験前になると、時に利用者が多く、自習の時なども利用されるそうである。若高にも、このようなりっぱな図書館が出来るのも、そう遠いことではないであろう。

玄関より臨む中央高校

次に、生徒数は一六〇〇名で男女の比は、一対六であるそうだ。

クラス編成は、各学年とも九クラスずつで、三年生になって理科系・文化系・就職とのABCに分れるとのことだ。そこで進学・就職状況を尋ねてみた。

就職する人は大変少なく、たいていの人が進学希望で、その中でも、特に東京芸術大学を受験する人が多いそうである。が、実際に合格する人は、二、三人程度であると言う。九大には、毎年十人程度が合格しているとのことだ。

生徒会組織は、会長一名、副会長三名、会計二名、書記二名で、生徒が会長だけを選挙し、残りの役員は会長の指名により決定される。今年は、始めての女子の生徒会長が出て、張りきっているとのことだ。校則は、余りきびしくなく、男子は長髪を許されている。尚、盗難は非常に少ないそうである。我が校にとってはうらやましいかぎり……。

クラブ活動は、文化部が十五、体育部が十二あり 特に盛んなクラブは、男子のバスケット部で、福岡市内で三位の成績を納めている。また、変わったクラブとしては、家事(調理)部、というのがある。

最後に、この学校の生徒手帳の一部分を皆さんに紹介しよう。

「男子は男子らしく、女子は女子らしく振舞い、男女互いに相尊敬し、相助け合うと共にその交際は、明朗且つ純真でなければならない。」

学生本位の店
淡路屋
小石峠若高前

〔若高生2割引き〕
大和写真工芸
若松区上原1丁目
㊼3173

阿部金物店
支店　大井戸通り1丁目
若松区本町4丁目
㊻3107

第五期工事始まる!!

―発展する若高―

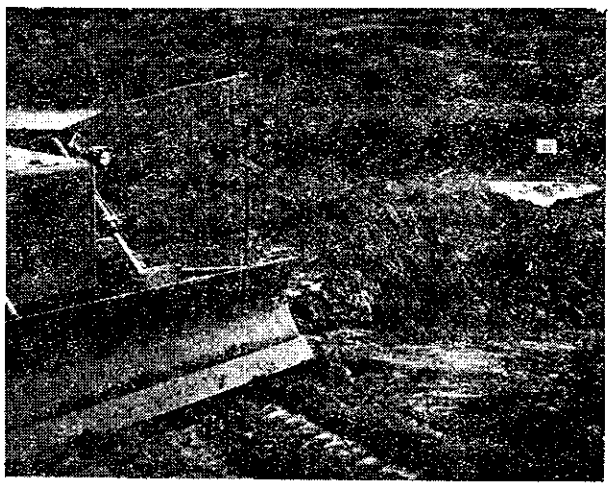
第二運動場建設進む

生徒一人当りの面積が狭いので運動場の拡張につつった。故に四月下旬より運動場南側にブルドーザーを乗り入れ、もはや地ならしの段階に入り、五月下旬には一般生徒の使用も天気次第でできるようになるものと思われる。

そして、その土地には、テニスバスケット、ハンドボール各コートを造ろうと言う案も出ている。

土地は星霞中裏の若高所有の土地とバックネット裏の若築不動産の土地・を交換したものである。

工事費用は、地価の差によって賄うことになっている。



ブルドーザーのつちおと高く（第二運動場）

まだ計画案であるが、現在のテニスコート、プールをつぶし、計二一四四㎡のラグビー部が使用すると思われるグラウンドができる予定である。プールは給食室の裏側、体育館の横の約六〇〇㎡の土地にできる予定になっている。

弓道場、現敷五〇四㎡は不動。野球部も現運動場を使用し、陸上部は、第二運動場で練習する。

武道場を体育館横の校宅跡に建設する予定。しかし、体育館建設時の借金が残っている関係上、着工期日は未定。

尚、これらの改築及び、新築は第六期工事として企画。

第五期工事は図書館新築が計画され、礫陵園内に建て坪、約九百㎡（二七六坪）で、梅雨までに整地完了、体育館建設費用の返済がすみ次第、二階建てで着工する予定になっている。

現運動場、コート並びに新運動場、コートの広さを掲げておく。

【第二運動場】
面積（約四〇〇〇㎡）
【テニスコート】
現敷地（一〇四八㎡）
【プール】
現敷地（四四六㎡）
新敷地（約六〇〇㎡）
【武道場】
現敷地（一六七㎡）

図書館の構造などを未尾になったが書いておこう。

〔一階〕
玄関、渡廊下（本館二階へ続く）、視聴覚教室、準備室、書庫、作業室、暗室、倉庫、特別閲覧室兼会議室、便所

〔二階〕
閲覧室、同窓会室兼職員閲覧室、事務室、整理室、バルコニー、非常階段

以上の工事ができあがった時には我々生徒の不便さも解消され、増々、運動部の発展が期待されるものと思う。更に図書館の現不便さもよくなり、若高に栄誉もふえ発展する若高となるだろう。

ガンバレ、ガンバレ若高！

先生お願いします！

新任紹介

藤井先生はじめ、川上先生、大曲先生が本校を去っていかれたがこの度、ベテランの先生は勇め、自信にみちあふれた先生方六人が赴任されて来た。そこで、出身校や今後の抱負を次の要領でインタビューしてみた。一、担当科目 二、出身校 三、現住所 四、第一印象 五、趣味 六、抱負

義経　治夫

一、数学科
二、明治専門学校（現九工大）
三、戸畑区沢見通り三丁目
四、先生方も生徒諸君も明るくのびのびした学校生活を送っている。
五、旅行
六、伝統ある本校に勤務になったことを光栄に思っています。生徒諸君と同列の立場に立って勉学に努力すると共に人間性豊かな高校を、社会人となるよう頑張りましょう。

日高　広範

一、社会科（地理、倫社）
二、法政大学
三、中間市下大隈
四、活気がみなぎっているというかんじ
五、「山村、漁村を旅すること」
六、人間味のある人間を育てたい

野沢　泰子

一、国語科（古典）
二、東京女子大学
三、戸畑区中本町一丁目
四、明るくて親しみやすい
五、手芸、お茶・
六、毎時間を充実したものにしたいと思います。

前田　晴美

一、図書司書
二、若松高校
三、若松区棚田町三の三
四、わかりません
五、読書
六、生徒のために役立つ図書館にしていきたい

池浦　英二

一、数学科
二、福岡教育大学
三、八幡区的場町教職員住宅二二三
四、授業態度がよい
五、一人で考える
六、みんなといっしょに遊ぶ

梅本　武雄

一、音楽科
二、広島大学
二、直方市西御館町六七〇の二二七
四、ファイトのある男性が多い
五、なんでもする
六、みんなと仲良くしていきたい

顔写真は事情により省きます

トピックス

万全

試験中、しばらく天井をにらんでいたら、試験官は二階へかけ上っていった。

新学期

女子の隣に、席替えになったので教科書は持っていかないことにした。

やな教師

生徒「先生、T大うけていいでしょうか」
先生「君がかね？」
生徒「もちろんです」
先生「来年かね？」

皮肉な結果

どうしてもわからない所が一カ所だけあった。あせってすっぽで書いておいたらそこだけ正解だった。

新手

入試の問題用紙に予備校の広告が刷りこんであった。

予期せぬことば

僕が「T大を受験します」と言ったら先生のアゴがはずれた。

非合理

試験日は　大安だった。
発表日は　仏滅だった。

―随筆―

「おしおいとり」

源　斌介

「おしおいとり」と言う言葉を御存知であろうか。

今では小石の旧家すじでも余り行なわれなくなった。「おしおいとり」というのは、大晦日にもちのついた供え物を持って海岸に行く。その時、笹を持ち、砂の上に打さあげられている海藻をそれに巻きつける。それから、そのお供物を海に投げ込み、海に向ってかしわ手を打ち、四方に向って拝す

その後、うやうやしく海藻のついている笹を海水につけ、「おしおい」をするのである。

これは、古代シャーマニズムの名残りで海の神を祭り、新年に幸あれと祈るものであろうと考えられる。

正月も過ぎて、ある友人と話しているうちに、この事が話題になった。

「おしおいとり」などやっているのは若松では、僕の家くらいなものであろうというと、友人が、「いや、それは僕の家でもやっている。近所も皆やっている。」と言った。その友人は安屋の方に住んでいるが、安屋の方ではまだ土地ごとに行なわれているという事を聞いた時、嬉しく、そして、一安心した。僕の行っている海岸はやがて、埋め立てられようとしている。そして、この近くには、笹の生えている所などなくなってきつつある。しかし、この海岸が埋め立てられてこの行事を行なう事が出来なくなっても、安屋では、まだまだ続けられていくだろう。

今頃になって、正月の話をと、思われるかもしれないが、この事には重大な意味があると思う。

日本の伝統についてのいろいろな記事が載る。その時、必ずといっていいほど、文末にその伝統の持つ悩みとして、後継者がいないと書かれてある。後を継ぐ者がいなければ、それがどんなに素晴らしいものであろうと、結局は絶えてしまうのである。

伝統を絶やさないということは僕等若者に与えられた一つの義務ではあるまいか。

僕はたとえ、それが何の意味のないものであっても古くから受け継がれて来たものを守っていくということに誇りを感じるのである。

現代版クルーソー

〔南海征服〕―映画紹介―

今回は、ウォルト・ディズニー作品である楽しい映画。「南海征服」を紹介しよう。

太平洋で遭難をしたロビン・クルーソー海軍大尉は疲労と孤独との戦いの末孤島に漂着した。彼は持ち前のアイディアを生かして不自由ながら快適な生活を始める。

ある日、彼は人間の足跡を発見しそれをたどっていくうちに異様な姿でそびえる石像を発見する。よじ登って探険しようとするが足をすべらせて墜落、途端に女の恐怖の叫び声。気絶している美しい土人の娘を介抱するが彼女は急に、クルーソーにとびかかり暴れ回る。クルーソーは彼女を縛り小屋につれて帰って手ぶり足まねで話しをすると彼女は近くにある島の首狩り族の酋長の娘であることがわかった。酋長は娘を、自分が信仰する巨大な石像と結婚させようとするが、娘が拒絶したので怒った酋長は彼女を島流しにしたのであった。

クルーソーは彼女に「フライディ」ならぬ「ウェンズディ」と名づけ小屋に住ませた。やがてウェンズディの姉妹やいとこたちが酋長の怒りにふれて逃げてきた。娘たちはクルーソーを酋長に選び、首狩り族の襲来に備える事にしたかくて米海軍大尉じきじきの女性軍の猛訓練が始った。やがて予想通りに大軍を率いて押し寄せた首狩り族とクルーソー率いる女性軍との決戦となるが…。

配役はクルーソーに「メリーポピンズ」に出演したディク・バン・ダイク、ウェンズディにはナンシー、クワンが扮している。テクニカラー版で一時間四十三分。原題は「LT. ROBIN CRUSOE. U. S. N.」（ロビンソンクルーソー海軍大尉）（映画部）

クルーソーとウェンズディー

編集後記

若高新聞部も発足以来二十年目にして百号を発行することになりました。それで、本号は百号を記念して特集号を編集してみましたがいかがですか？

面数を従来のよりも二面ふやして六面にし例年のごとくクラブ活動を書いて総計八面にしました。

これは新入生にクラブを紹介し楽しい高校生々活を送る為には是非ともクラブ活動に参加してもらい若高発展のために編集したものです。だから一年生はこれを参考にして自分に適したクラブを選んで積極的に参加して下さい。

いままで百号を発行できる様になりましたことはみなさんや、よき先輩の協力があってこそできたのだと思っています。これからはまた最初に戻ったつもりで頑張っていきたいと思っていますので、協力をお願いする次第です。

古書専門
高価買入
珍古堂書店
（若高生大歓迎）
若松バッテングセンター前

品質で勝負
丸柏